はままつ案内人会報

2019年6月号
207号

浜松観光ボランティアガイドの会

新入会員現地研修会（浜松駅周辺）

5月20日、毎年恒例の浜松駅周辺のインフォメーション実地研修が、新入会員（8名）を対象に研修部の主催で行われました。

9時50分駅南口に集合し、「インフォメーション実地研修リスト」「浜松駅当番留意点」「駅構内レイアウト図」の3部が配布されました。研修部員を含めて総勢17名は観光インフォメーションセンターに移動、研修部長の鈴木利雄さんから浜松駅当番の留意点等の説明の後、杉田センター長から「今年はラグビーワールドカップ、来年はオリンピックと浜松への来客も多くなると見込まれますので、ご協力をお願いします」との挨拶がありました。

ショパンの丘で記念写真撮影

研修対象の63カ所中、前半の35カ所は研修部の益田啓子さんが、後半の28カ所は伊藤道代さんがガイドをしてくれました。

舘山寺温泉行シャトルバス乗り場

薄曇りの中、まず駅南口方面を「うな炭亭」前を回って「八百徳支店」まで15カ所を、更に駅構内の「忘れ物取扱所」「ロッカー」など14カ所を、西側に出て「バンビ乗り場」「あつみ」などから「ザ・ゲート・ハママツ」まで6カ所を、次に北側の「遠鉄百貨店前のプラタナスの木」「バスターミナル」等17カ所を早足で巡りました。

特に駅北口の「キタラ広場」等で開催されるプロムナードコンサートのインフォメーション看板の存在とキタラ広場の名前が、“駅キタ”“ここにキタラ”“古代ギリシャの弦楽器キタラ”に由来するとの説明が印象的でした。

次に東側のアクトシティ方面（11カ所）に向かい、アクト回廊の手前の急な階段を上り、「ショパンの丘」にて新入会員の記念写真撮影を行いました。ここでは毎朝ラジオ体操が行われており、参加される新入会員もおられるとか。「楽器博物館」から「献血センター」前を進んでいた時、強い風が吹き2～3人の方が帽子を飛ばされ、下の「アクトサンクン広場」まで拾いに行くというアクシデントがありました。特に冬の季節にお客様を案内する時に、遠州特有の「空っ風」についても説明が必要と感じる場面でした。

研修最後の集合

最後の「八百徳本店」前に11時40分頃集合し、浜松駅と浜松城を結ぶ道路両脇に108本設置され道標となっている街灯の最上部にある家康公の兜印「歯朶印(しだじるし)」を眺めながら、「今回の研修をもって新入会員の研修はすべて完了しました。今後は各ブロックで研鑽に励んでください」との鈴木利雄さんの挨拶で解散しました。

駅のガイドは、インフォメーションセンター受付員の説明に加え、私たち「何でも屋」の思いやりある案内でお客様が満足されるのでは、と感じながらの2時間でした。

広報部　植田善和（北ブロック）

事業部主催　「東小学校　ふるさと講座」

5月31日、10時から10時50分まで東小学校ポプラホールにて6年生60名を対象に「ふるさと講座」が行われました。6月11日の校外学習「家康の散歩道」に向けての事前学習です。

冒頭に事業部長の戸塚正康さんから講座の趣旨説明があり、前半は事業部森部勝義さんから〈家康の生い立ち〉、後半は橋本彰さんから〈家康がなぜ天下を取れたか〉をテーマに講義が進みました。

講義の様子

戦国時代の、甲斐の武田、駿府・遠江・三河の今川、尾張の織田の位置をホワイトボードに図示して、三河の家康との関わりを説明しました。岡崎城内で生まれた家康（幼名を竹千代という）が、4歳から19歳まで織田、今川の人質として苦労した時代は、現代の子供には理解し難いですが、家康の人格形成の基になっている大切な時代だったといえます。

桶狭間の戦い後、自由の身になって岡崎城に入り三河を治め、29歳から45歳の17年間の浜松城時代も戦いに明け暮れ、駿府城、小田原城を経て49歳で江戸城に入りました。関ヶ原の戦いに勝利し62歳で征夷大将軍となり、大阪冬の陣・夏の陣の後、駿府城にて75歳で波乱万丈の生涯を閉じました。では、家康がなぜ天下をとれたのか？以下の要素がありました。

家康公60歳頃の肖像（徳川義直筆）

1．優秀な家臣団に恵まれた―家臣を宝と思う。
2．長生きをした―75歳(信長49歳、秀吉62歳、信玄52歳)。
3．人質時代の体験―粘り強い。
4．運の良さ―神君伊賀越え等々。

講座終了後、詳しい資料が配布されました。歴史大好き少年の元気な発言は頼もしい限りです。　広報部　藤田礼子　（中ブロック）

会員の交流広場　♪男声合唱で元気よく♪

私は男声合唱団に入団してから早いもので10年目に入りました。友人から誘われて、それまで合唱団に入ったことはなく、カラオケもほとんど歌っていなかったのですが、音楽を聴くのは好きだったし、合唱はこれからの人生の大きな楽しみになると思って入団することにしました。

合唱練習を聴いて、皆の声が若いのにびっくりしました。歌い続けると、こうも声が若返るのかというのが第一印象でした。合唱の発声は、普段の話し声やカラオケの発声とは異なり、腹から出す発声だからでしょうか。声を揃えて歌うことは楽しいものでした。更に、各パートが揃ってきてハモってくると、心地よさを感じます。

15周年記念演奏会（アクト中ホール）

入団以来、歌った曲は男声合唱曲、日本と世界の民謡や愛唱歌、童謡、歌謡曲、ポピュラー、クラシックなど様々な分野の曲、110曲余りになりました。

また、私共の男声合唱団の発表の場として、例年は街かどコンサート・市民合唱祭への参加、デイサービスなどへの訪問演奏、クリスマスコンサートの開催などですが、これに加えてアクトホールで開催された主な演奏会では、浜松市制100周年記念式典で浜松市歌を歌い、2年前の9月に創立15周年記念演奏会を行い、昨年は同志社グリークラブ演奏会に賛助出演をしました。演奏会を目指して、聴いていただく人に喜んでもらえるようにと練習に励み、発表の舞台では緊張しながらも思うように歌えた時には、感動すら覚えました。今年の10月にはオペラ「アイーダ」の演奏会に参加する予定です。これからもずっと歌い続けていきたいと思っています。

合唱団名は「男声合唱団オーロラ」、創立後今年で17年目に入り、団員数は45名、平均年齢が74歳です。練習は火曜日の19～21時で、団員募集中です。練習の見学・入団希望される方は団のホームページをご覧ください、連絡先があります。ＨＰは団名で引けます。　中ブロック　佐原正敏

中ブロック「浜北山辺の道ウォーキング」

新緑まぶしい快晴の５月 27 日、「中ブロック浜北山辺の道ウォーキング」を実施しました。

浜北森林公園「森の家」で定例会を実施し、昼食後、岩水寺大駐車場に移動していよいよ山辺の道へ。５月にしては暑い日差しでしたので、参加者は 12 名に減ってしまいました。先ずは**根堅遺跡**へ。本州では一番古い人骨…なんと旧石器時代のものだそうで、この人骨は東大研究博物館に保存されています。

炎天下で暑くなったので、車で廻ることに。車窓から**接待茶屋跡**を見て、**向野(むかいの)古墳６号**に向かう。看板から歩いて草深い細道を登ると石室がありました。薄暗い中に恐る恐る入ると、人が立って５～6 人は入れる広さでひんやりとしていました。1300 年前に造られたそうです。この古墳の南の古墳から金銅透彫(こんどうすかしぼり)金具（帽子のつばのような物）＜重要文化財＞が出土し、伊勢神宮徴古館に所蔵されています。古墳に葬られた人物は中央政権との関わり深い貴人と思われます。

続いて**椎ヶ脇神社**です。この神社は坂上田村麻呂が蝦夷征伐に出かけた折、天竜川が洪水のため困っていたところ、土地の者が筏を作って無事渡ることができて、将軍は大変喜ばれ、この地に水神の祠(ほこら)をお祀りしたという伝説があります。

椎ヶ脇神社の拝殿

次の**鹿島八幡宮**は家康が松の木に鞍を掛けて休んだという「鞍掛けの松」があり、この場所は湧水が豊富できれいな水がこんこんと湧き出ていて、県の「湧水 100 選」に指定されている所。この頃から勉強する雰囲気から、場も和み会話も弾んで笑い合ったり随分フレンドリーな雰囲気に変わってきました。

最後に**「小野家」本家の末裔のお宅**へ。祖は小野妹子で、七世から遠州に移り、44 世の小野家は浜北区尾野にありました。

２時間余り山辺の道を廻ってみて、今まで知らなかった古墳やそれぞれ歴史を感じながら勉強ができたことで、浜北・天竜がグッと身近に思えました……清水さんに感謝です。

友人を誘って、**今度は歩きたい**です！

中ブロック　川上英三花

会員の交流広場

家康公敗走ルートについて

武田方武将の子孫のまとめた本に、三方ヶ原合戦の際の家康公敗走ルートが述べられている。問題提起を目的としてこの説に自分の補正と各地区の伝承等を加えて紹介したい。

精鎮塚

徳川の本陣のあったとされる精鎮塚(しょうちんづか)から当時の浜松城までのルートを点（遺跡、痕跡、典拠、伝承）をつなぐことでたどってみたい。陽動隊が姫街道（当時は祝田を経由していた・小和田哲男氏）を退却して布橋、城下を目指す一方、少数精鋭の家康本隊は花川の隠れ里で夜の深まるのを待ち、寒月（下弦の月）の薄明かりのもと、和地道（権現谷道）をたどったとする。そのルートは、精鎮塚（花川・徳川本陣か・標識あり・「三方原物語」）→金八崖(きんぱがけ)（花川テニス場横・地形痕跡・標識あり）→隠れ里（吉野の八右衛門宅・「とみつか」）→和地・上久保の合戦（ぬくもりの森の上・「和の里」）→和地道（中央図書館アーカイブに絵地図あり）→栗谷坂(くりやざか)(和地小横)→谷上(やがみ)（庄屋池野家にて武田勢をやり過ごす・「和の里」）→琵琶池（地形痕跡・自衛隊西側？）→不遣(やらず)の池（寸田ヶ谷・AWACS 駐機場付近・厳島神社横・馬に水やり）→馬生(ばしょう)→権現谷（旗掛けの松、片身が池・鎧田・「とみつか」）→布橋（夏目吉信と馬を換える・「磯田道史氏講演録」）あるいは成瀬谷（宗源院・成瀬藤蔵討死）→普済寺（炎上）→三組（清水坂・湧き水で喉を潤した）→伊場（平手汎秀討死・神社跡）→塩町（御手洗清著「家康伝説」）→塩市口(しおまちぐち)か明光寺口か玄黙口→城内。

金八崖

（注）文中の「　」は、出典を示す。

＊磯田氏は榊原氏の家伝に「上様は西の山陰を退かさせられ候」とあるとして三方原台地の東側の山陰を退却したのだろうとしているが、私はこれは台地の西側の山陰である和地道や権現谷道を指すと考える。

北ブロック　曽布川 保

◆ 子どもガイド養成講座修了生からのメッセージ ◆

「子どもガイド養成講座」修了生の井熊一翠(いくまいっすい)さんから浜松城事務室に、次のようにメッセージが寄せられましたので紹介します。

大学進学のため挨拶に伺いました。（高知大学です）
子どもガイドとして活動した小6～中学までの間、とてもよい体験をさせていただきました。ありがとうございました。
今後もガイドの活動頑張ってください。　2019年3月26日　井熊一翠

右の写真は、平成26年8月3日、10日、17日、24日の日曜日に、4回にわたり開催した養成講座の最終日に、浜松城本丸跡でおこなわれた修了証書授与式の時の井熊さんです。当時、八幡中学校2年生でした。

学校が休みの時は浜松城に来てお客様にガイドをしている姿が思い出されます。大学での充実した勉学に励んで下さい。故郷浜松に帰省した折は浜松城に遊びに来て下さい。

広報部長　小池輝夫（東ブロック）

新入会員の入会動機

定年退職後は、自己実現と社会貢献を目標にして、自分に出来る範囲でボランティア活動を始めました。地域社会に貢献出来て自分が興味を持っている地元の歴史や文化、産業などを改めて勉強できそうだと思って観光ボランティアに応募しました。　北ブロック　袴田修司

5月のガイド活動　≪明るく楽しくやらまいか≫

「浜松城」・「犀ヶ崖資料館」・「浜松まつり会館」にて、来場者にガイドを行っています。また、この3箇所の他に「浜松駅観光インフォメーションセンター」や「家康の散歩道」同行ガイド、各種イベントとタイアップしたガイドなど幅広く活動しています。

≪浜 松 城≫

複数回来場のあった団体			
	＊はとバスツアー	2回	62名
	＊徳川家康ゆかりの地めぐり	2回	82名
	＊花彩る東海3つの城めぐり	2回	82名
	＊阪急交通社	2回	61名
7日	火	**芳川北小学校**	121名
8日	水	上島幼稚園	54名
		掛川市立大浜中学校	89名
9日	木	磐田市立竜洋西小学校	110名
10日	金	**中郡小学校**	107名
		北浜東小学校	48名
14日	火	**北浜北小学校**	114名
24日	金	横浜歴史研究会	45名
25日	土	G4112 静岡城めぐり	38名
		二六会	35名
29日	水	**清竜中学校**	59名
		竜禅寺小学校	53名
		与進小学校	188名
		上記以外に34名以下の29団体	464名

≪犀ヶ崖資料館≫

8日	水	掛川大浜中学校	16名
10日	金	夏目吉信勉強会	10名
14日	火	**北浜北小学校**	103名
23日	木	横浜歴史研究会	43名
24日	金	クラブツーリズム	40名
26日	日	クラブツーリズム	46名

≪浜松まつり会館≫

3日	金	浜松まつり	1475名
4日	土	浜松まつり	1308名
5日	日	浜松まつり	906名
9日	木	掛川大浜中学校	93名
＊		日曜対応（12、19、26日）	245名

はままつ案内人会報　207号
編集・発行　浜松観光ボランティアガイドの会

〒430-0946
浜松市中区元城町100-2　(浜松城内)
TEL&FAX　053-456-1303
メールアドレス　mail@hama-svg.jp
ホームページ　http://www.hama-svg.jp/

はままつ案内人　検索